

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

波照間島

策定主体：波照間島さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産 (策定時)	170	5	11	185	6.7	3.8	2.9	6.4	11,344	170	319	11,833
平成 22 年産 (目標)	175	5	15	195	7.1	4.2	4.2	6.8	12,389	211	634	13,234
(実績)	184	1	8	193	8.3	4.9	4.3	8.2	15,402	17	367	15,786
(達成度 (%))	(105.1)	(7.0)	(56.5)	(98.9)	(116.9)	(116.7)	(102.4)	(120.6)	(124.3)	(8.1)	(57.9)	(119.3)
平成 27 年産 (目標)	175	5	15	195	7.6	4.5	4.5	7.2	13,219	225	676	14,120
平成 26 年産 (実績)	167	2	41	210	3.7	1.8	2.5	3.5	6,235	33	1,042	7,310
(達成度 (%))	(95.2)	(37.0)	(274.9)	(107.5)	(49.2)	(39.7)	(56.2)	(48.4)	(47.2)	(14.7)	(154.1)	(51.8)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	3	—	0	0
平成 22 年度 (目標)	4	—	0	0
(実績)	31	—	0	0
(達成度 (%))	(775)	—	(0)	(0)
平成 27 年度 (目標)	4	—	0	0
平成 26 年度 (実績)	10	—	0	0
(達成度 (%))	(250)	—	(0)	(0)

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ 収穫作業の機械化を図る。
- ・ 夏植中心のため原料の安定的な確保が難しい。
- ・ 水資源の確保が困難で干ばつや台風の被害を受けやすい。
- ・ 農業用水とかんがい施設の整備が必要。
- ・ 病害虫の被害や栽培指針の遵守が不十分である。

② 課題に対する取組内容

- ・ 機械化の推進。
- ・ 計画的な干ばつ対策の推進。
- ・ 防風・防潮林の経営活動。
- ・ 病害虫防除対策。

③ 解決した課題

- ・ 収穫面積の確保及び、株出面積の増加
- ・ 収穫機械の導入（刈倒機械 3 台導入）

④ 依然として残っている課題

- ・ かんがい用水の有効利用。
- ・ 適期植付け。
- ・ 茎数の確保。
- ・ 肥培管理の徹底が必要である。

⑤ 新たに生じた課題

- ・ 高齢化により農家戸数の減少による安定的な原料の搬入が厳しくなっており、脱葉施設の導入が課題となっている。
- ・ 収穫機械の老朽化により更新が必要となっている。

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	167	2	41	210	3.7	1.8	2.5	3.5	6,235	33	1,043	7,311
平成 28 年産 (目標)	165	4	40	209	6.0	2.6	3.5	5.5	9,900	105	1,400	11,405
平成 29 年産 (目標)	165	4	42	211	6.0	2.6	3.4	5.4	9,900	105	1,435	11,440
平成 30 年産 (目標)	165	4	42	211	6.0	2.6	3.4	5.4	9,900	105	1,435	11,440
平成 31 年産 (目標)	165	4	43	212	6.0	2.6	3.4	5.4	9,900	105	1,470	11,400
平成 32 年産 (目標)	165	5	43	213	6.0	2.6	3.4	5.5	9,900	130	1,470	11,500
平成 37 年産 (目標)	165	5	45	215	6.0	2.6	3.3	5.3	9,900	130	1,470	11,500

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	10	—	0	0
平成 32 年度 (目標)	20	—	0	0
平成 37 年度 (目標)	30	—	0	0

(3) 目標達成に向けた取組方向

収穫作業を手刈り、刈倒機とハーベスタで行っているが、十分な規模拡大はされていない。依然として生産農家の高齢化が進んでいることから、生産組合、製糖工場と一体となって収穫機械化体系を検討する。また、農作業の受委託を担えるよう組織や中核的担い手である認定農業者を育成する。

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化に伴い、今後の担い手の育成。 ・機械化が遅れている。 <p>【現状】</p> <p><担い手育成状況></p> <p>①担い手の数：認定農業者 10 経営体</p> <p>②生産法人数：0</p> <p>③遊休農地の実態：27ha</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植付、肥培管理の受委託体制を構築する必要がある。 ・高齢化に伴い今後の担い手育成が必要である。 ・機械受委託組織が共同作業で収穫等を行っているが、今後は厳しくなることが予想される。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の育成 ・収穫作業及び管理作業の機械化の推進 ・作業受託体制の構築を図る <p>【目標】</p> <p>①収穫作業を 17 組のユイマール組織（共同作業体）で行っているが、高齢化が進んでいることから、収穫作業の機械化を推進していく。</p> <p>②認定農業者の育成を図る。</p> <p>③収穫作業の機械化による、余剰労力を肥培管理に振り向けて生産性向上を図る。</p> <p><担い手の育成目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 820 1727 956"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H32</th> <th>H37</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>12</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>生産法人</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>受託組織</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化対策として、収穫作業及び管理作業の機械化の推進 ・刈倒機を中心とした共同作業による収穫体系の維持 ・農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積を推進する 		H28	H32	H37	認定農業者	12	20	30	生産法人	0	0	0	受託組織	1	1	1	
	H28	H32	H37																
認定農業者	12	20	30																
生産法人	0	0	0																
受託組織	1	1	1																
<p>②農業共済制度への加入促進</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展で離農、掛け金の負担加重感等で共済加入に対する意識の低下。 ・無事故の場合に共済掛金の掛け捨てによる加入への抵抗感。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共済制度の周知及び加入促進 																	

【現状】

<畑作物共済加入状況（H26年度）>

共済加入戸数（率）	90戸（80.4%）
引き受け面積（率）	203.9ha（93.2%）
支払金額	68,177千円

【課題】

- ・共済加入率は高く、引き続き加入促進を図る必要がある。

【目標】

<農業共済の加入目標>

項目	28年	29年	30年	31年	32年
戸数（戸）	102	112	112	112	112
面積（ha）	211	211	212	213	215
面積加入率(%)	96.5	96.5	96.9	97.4	98.7

有資格者：26/27年期さとうきび生産実績に基づく有資格戸数・面積
戸数：112戸、面積：218.7ha

【計画】

- ・関係機関と連携し、共済制度の周知、普及により、加入率向上を図る。
- ・沖縄型農業共済制度推進事業の活用による加入促進を図る。

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																																
①作型の選択	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏植を中心に株出の割合増加による収穫面積の確保 <p>【現状】</p> <p><作型割合及び単収の推移></p> <p style="text-align: right;">単位：%、kg/10</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>夏植</th><th>春植</th><th>株出</th><th>単収</th></tr> <tr><td>18</td><td>97.5</td><td>0.4</td><td>2.1</td><td>6,370</td></tr> <tr><td>19</td><td>96.3</td><td>1.7</td><td>2.0</td><td>6,617</td></tr> <tr><td>20</td><td>96.1</td><td>0.2</td><td>3.7</td><td>6,238</td></tr> <tr><td>21</td><td>95.9</td><td>1.2</td><td>2.9</td><td>8,190</td></tr> <tr><td>22</td><td>95.4</td><td>0.2</td><td>4.4</td><td>8,190</td></tr> <tr><td>23</td><td>90.2</td><td>0.6</td><td>9.2</td><td>4,998</td></tr> <tr><td>24</td><td>85.4</td><td>1.0</td><td>13.6</td><td>5,264</td></tr> <tr><td>25</td><td>80.0</td><td>0.6</td><td>19.4</td><td>5,122</td></tr> <tr><td>26</td><td>79.4</td><td>0.9</td><td>19.7</td><td>3,486</td></tr> </table>	年度	夏植	春植	株出	単収	18	97.5	0.4	2.1	6,370	19	96.3	1.7	2.0	6,617	20	96.1	0.2	3.7	6,238	21	95.9	1.2	2.9	8,190	22	95.4	0.2	4.4	8,190	23	90.2	0.6	9.2	4,998	24	85.4	1.0	13.6	5,264	25	80.0	0.6	19.4	5,122	26	79.4	0.9	19.7	3,486	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作型割合としては現状の割合を概ね維持することとし、夏植8割、株出2割程度とする。 ・平均単収の水準については、6.5～7.0t/10を目標とする。 <p>【目標】</p> <p><作型割合及び単収の目標></p> <p style="text-align: right;">単位：%、kg/10a</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>夏植</th><th>春植</th><th>株出</th><th>単収</th></tr> <tr><td>28</td><td>79.2</td><td>1.9</td><td>18.9</td><td>6,830</td></tr> <tr><td>29</td><td>78.2</td><td>1.9</td><td>19.9</td><td>6,728</td></tr> <tr><td>30</td><td>77.5</td><td>1.9</td><td>20.6</td><td>6,728</td></tr> <tr><td>31</td><td>77.1</td><td>1.9</td><td>21.0</td><td>6,717</td></tr> <tr><td>32</td><td>76.7</td><td>2.3</td><td>20.9</td><td>6,584</td></tr> </table>	年度	夏植	春植	株出	単収	28	79.2	1.9	18.9	6,830	29	78.2	1.9	19.9	6,728	30	77.5	1.9	20.6	6,728	31	77.1	1.9	21.0	6,717	32	76.7	2.3	20.9	6,584	
年度	夏植	春植	株出	単収																																																																															
18	97.5	0.4	2.1	6,370																																																																															
19	96.3	1.7	2.0	6,617																																																																															
20	96.1	0.2	3.7	6,238																																																																															
21	95.9	1.2	2.9	8,190																																																																															
22	95.4	0.2	4.4	8,190																																																																															
23	90.2	0.6	9.2	4,998																																																																															
24	85.4	1.0	13.6	5,264																																																																															
25	80.0	0.6	19.4	5,122																																																																															
26	79.4	0.9	19.7	3,486																																																																															
年度	夏植	春植	株出	単収																																																																															
28	79.2	1.9	18.9	6,830																																																																															
29	78.2	1.9	19.9	6,728																																																																															
30	77.5	1.9	20.6	6,728																																																																															
31	77.1	1.9	21.0	6,717																																																																															
32	76.7	2.3	20.9	6,584																																																																															

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌害虫に効果のある薬剤の利用により株出栽培が可能となり、株出面積が急増している。 ・ 収穫作業との労働競合により株出管理作業の遅れなどから株出単収の低下が懸念される。 	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培講習会や展示ほ等により、適期株出管理作業を周知し、単収向上を図る。 	
②気象災害に強い生産基盤の整備	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 波照間島の土壌は、島尻マーヅで表土が浅いため干ばつの影響を受けやすい。 また、台風被害を受けやすい平らな地形である。 <p>【現状】</p> <p><農業基盤整備の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水源整備率： 53.0% ・ ほ場整備率： 800% ・ 畑地灌漑整備率： 56.5% <p>※H25年度整備実績値</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌の関係で干ばつの影響を受けやすい。 ・ 平坦な地形のため台風被害を受けやすい。 ・ かんがい施設の整備を推進する必要がある。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 干ばつ等被害を軽減するため、水源、畑地かんがい整備、防風林等の整備を推進する。 また、保安林指定についても検討する。 <p>【目標】</p> <p><農業基盤整備の目標（H32年度）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水源整備率： 63.4% ・ ほ場整備率： 80.0% ・ 畑地灌漑整備率： 60.0% <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動式スプリンクラーの活用による干ばつ時のかん水対策の実施を推進する。 ・ 島外の地区と連携した大型かん水タンクの利用によるかん水の実施を推進する。 	
③機械化一貫体系の確立	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の高齢化がみられるが機械化が進んでない。 ・ 農家の高齢化の進展のため集中脱葉施設と収穫機械の導入が必要。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在収穫体系を維持しつつ、新たな収穫体系の導入を検討する。 	

【現状】

<農業機械等の稼働状況（H26）>

	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	2	10
株出管理機	2	49.7
プランタ	0	0
刈倒機	5	89

【課題】

- ・更なる収穫作業の機械化が必要であり、含みつ糖に適した機械収穫体系の検討が必要である。
- ・作業受託組織等の育成を図る必要がある。
- ・既存収穫機械の老朽化により更新する必要がある。

【目標】

<農業機械等の稼働目標>

①ハーベスタ 単位：台、%

	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数	2	2	2	2	2
稼働率	10	10	15	15	20

※稼働率は面積比率

②刈倒機 単位：台、%

	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数	5	5	5	5	5
稼働率	85	85	85	85	85

※稼働率は面積比率

③株出管理機 単位：台、%

	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数	2	2	2	2	2
稼働率	20	20	20	20	20

※稼働率は面積比率

④プランタ 単位：台、%

	H28	H29	H30	H31	H32
稼働台数	1	1	1	1	1
稼働率	10	10	10	10	10

※稼働率は面積比率

【計画】

- ・計画的な収穫機械導入を進めるとともに、刈倒機及びハーベスタによる収穫割合の維持に努める。
- ・刈倒機収穫茎を全茎無脱葉で搬入できる体系の確立のため、含みつ糖製造に影響しない脱葉施設の整備について検討を進める。

④地力の増進

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・堆肥センターが整備されていないため、余剰バガスを活用した土づくりを推進する。

【取組の方向】

- ・有機質投入による土づくりの推進

<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糖工場から出る余剰バガス及びフィルターケーキをほ場へ投入し土づくりを行っている。 ・緑肥栽培による土づくりを行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑肥栽培を行う農家が少ない。 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余剰バガス及びフィルターケーキの投入 ・緑肥栽培による土づくり推進 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析を実施し、その結果に基づき、土づくりを推進する。 ・緑肥栽培による土づくりを周知するとともに、町単独事業により緑肥栽培を推進する。 ・葉ガラや余剰バガス、フィルターケーキ等のほ場への投入を継続することにより地力の増進を図る。
---	---

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																
①栽培技術の普及等	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点滴かんがい用のチューブ等は必要性が高いが、溜め池等の水源確保が十分でないため、末端のほ場では普及促進が進んでいない。 <p>【現状】</p> <p><適期肥培管理実施状況></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>87%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源確保が不十分なため、かん水対策が十分に実施できない。 ・株出面積の増加による平均単収の減少が見られる。 	栽培型	達成率	夏植	85%	春植	87%	株出	80%	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かん水機材を活用したかん水対策の推進 ・早期株出管理作業の推進 <p>【目標】</p> <p><5年後適期肥培管理実施目標></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源が確保できる地域では、移動式スプリンクラーや点滴チューブによる適期かん水の実施を推進する。 ・株出管理実証展示ほの設置により、早期管理作業を推進する。 	栽培型	達成率	夏植	93%	春植	90%	株出	90%	
栽培型	達成率																		
夏植	85%																		
春植	87%																		
株出	80%																		
栽培型	達成率																		
夏植	93%																		
春植	90%																		
株出	90%																		

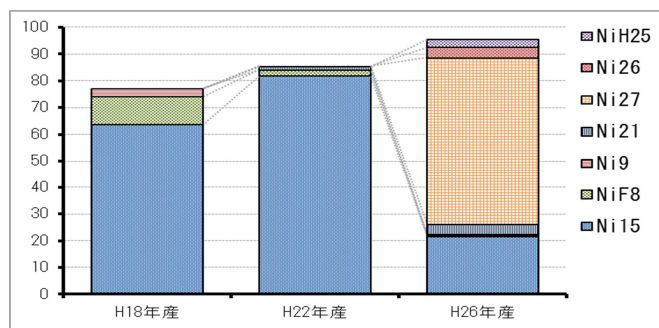
②優良品種の選
択・普及

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】
・地域に適した奨励品種への更新を図る。

【現状】

<品種別作付面積の推移>

	栽培比率(%)						
	Ni15	NiF8	Ni9	Ni21	Ni27	Ni26	NiH25
H18	63.6	10.4	3.0				
H22	81.8	2.3		1.3			
H26	21.6	0.5	0.3	3.7	62.6	3.8	3.0



【取組方向】

- ・含みつ糖向け品種の選定、導入による安定生産、黒糖製品の品質の安定化

【取組目標】

- ①現状で含みつ糖製造に向く品種の栽培を維持しつつ、より含みつ糖に向く品種の選定・導入を図る。
- ②新品種の導入及び品種構成について検討する。

<品種別作付面積の目標>

	栽培比率(%)			
年度	Ni27	Ni15	Ni26	その他
28	50	25	10	15
29				
30	48	30	15	7
31				
32	45	30	15	10

【課題】

- ・気象災害、病害抵抗性品種の導入が必要である。
- ・含みつ糖向け品種の選定・導入が必要である。

【計画】

- ・新品種の地域適応性を検討するため実証ほを設置し、適応性を検討する。
- ・黒穂病等の対策のため引き続き原苗ほを設置し、健全無病苗の普及に努める。

③病害虫対策

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・地域を挙げての一斉防除が必要。
- ・イネヨトウの発生に対して、交信かく乱による防除を実施した。

【取組方向】

- ・適期防除、農薬の適正利用について、生産者への周知を図り、被害軽減に努める。
- ・防除機械の整備、共同防除体制の整備により、作業受託による一斉防除を実施する。

【現状】

① 病害虫被害の状況

さとうきび増産緊急対策事業で今期の新植・夏植を対象にプリンスベイトを全農家へ配布した。これにより新植・夏植についてはハリガネムシやメイチュウの被害は少なくなったものの、フェロモントラップによるイネヨトウ成虫の捕獲数が増えている。

<イネヨトウ交信かく乱事業実施状況>

年度	実施面積	備考
H25年度	402ha	防除普及事業
H26年度	223ha	生産安定化等支援事業

【課題】

- ・病害虫の発生源となるほ場周辺の除草管理が不十分である。
- ・イネヨトウの発生密度が高く、芯枯被害が懸念される。
- ・除草剤散布、農薬散布に使用できる機械が少ない。

【目標】

- ・防除講習会による適期防除の指導
- ・製糖工場を中心とした作業受託による防除の実施

【計画】

- ・病害虫発生状況を定期的に調査し、発生状況を数値的に把握し、生産者に対して情報提供を行う体制及び病害虫の一斉防除について検討を行う。
- ・島全体をカバーしての交信かく乱による病害虫の防除や迅速かつ効率的な防除作業が可能な作業機械の導入について検討を行う。

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

<p>①さとうきび増産に向けた取組推進体制</p>																												
<p>②関係者の役割分担</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">参画機関</th> <th rowspan="2">担うべき役割</th> <th colspan="3">具体的取組方策</th> </tr> <tr> <th>経営基盤の強化</th> <th>生産基盤の強化</th> <th>技術対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>竹富町</td> <td>① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等の事項 ③ 国、県との調整等 ④ さとうきび増産体制に関する事項 ⑤ その他増産に関する事項全般</td> <td>① 受託組織の推進 ② 共済加入の促進 ③ 認定農業者の認定</td> <td>① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 集中脱葉施設の検討 ⑤ 暴風防潮林の整備</td> <td>① 適正種苗の導入普及 ② 病害虫防除対策</td> </tr> <tr> <td>農業委員会</td> <td>① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への啓発</td> <td>① 農地の流動化促進 ② 耕作放棄地の点検等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>JA 八重山支店営農センター</td> <td>① 生産性向上の推進に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動 ④ 農家への技術指導に関する事項 ⑤ 生産組織、受託組織に関する事項 ⑥ 生産資材に関する事項</td> <td>① 生産組織の推進 ② 受託組織の推進 ③ 共済加入の促進</td> <td>① 機械等の事業導入 ② 生産資材等の提供</td> <td>① 栽培講習会の開催 ② 肥培管理ごよみ作成 ③ 展示ほ調査協力 ④ 病害虫防除の推進</td> </tr> </tbody> </table>					参画機関	担うべき役割	具体的取組方策			経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策	竹富町	① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等の事項 ③ 国、県との調整等 ④ さとうきび増産体制に関する事項 ⑤ その他増産に関する事項全般	① 受託組織の推進 ② 共済加入の促進 ③ 認定農業者の認定	① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 集中脱葉施設の検討 ⑤ 暴風防潮林の整備	① 適正種苗の導入普及 ② 病害虫防除対策	農業委員会	① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への啓発	① 農地の流動化促進 ② 耕作放棄地の点検等			JA 八重山支店営農センター	① 生産性向上の推進に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動 ④ 農家への技術指導に関する事項 ⑤ 生産組織、受託組織に関する事項 ⑥ 生産資材に関する事項	① 生産組織の推進 ② 受託組織の推進 ③ 共済加入の促進	① 機械等の事業導入 ② 生産資材等の提供	① 栽培講習会の開催 ② 肥培管理ごよみ作成 ③ 展示ほ調査協力 ④ 病害虫防除の推進
参画機関	担うべき役割	具体的取組方策																										
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策																								
竹富町	① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等の事項 ③ 国、県との調整等 ④ さとうきび増産体制に関する事項 ⑤ その他増産に関する事項全般	① 受託組織の推進 ② 共済加入の促進 ③ 認定農業者の認定	① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 集中脱葉施設の検討 ⑤ 暴風防潮林の整備	① 適正種苗の導入普及 ② 病害虫防除対策																								
農業委員会	① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への啓発	① 農地の流動化促進 ② 耕作放棄地の点検等																										
JA 八重山支店営農センター	① 生産性向上の推進に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動 ④ 農家への技術指導に関する事項 ⑤ 生産組織、受託組織に関する事項 ⑥ 生産資材に関する事項	① 生産組織の推進 ② 受託組織の推進 ③ 共済加入の促進	① 機械等の事業導入 ② 生産資材等の提供	① 栽培講習会の開催 ② 肥培管理ごよみ作成 ③ 展示ほ調査協力 ④ 病害虫防除の推進																								

	波照間製糖株式会社	① 実証展示ほ等への協力 ② 品種導入等の技術に関する事項 ③ 堆肥、バガス等の供給等 ④ その他、資材等の提供	① 受託組織等への協力 ② 共済加入の促進	① 車輜、機械等の提供 ② バガスの供給等	① 実証展示ほの設置 ② 新品種の普及拡大 ③ 病虫害防除の推進
	生産農家	① 技術講習会等の開催等への協力 ② 生産技術向上等への協力 ③ 実証展示ほ設置等への協力	① 生産組織への加入 ② 共済への加入	① 増産体制への協力	① 実証展示ほ設置等への協力
	沖縄県 (八重山農業改良普及課・農研センター石垣支所)	① 生産技術に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 生産性に関する事項全般 ④ 県行政との調整に関する事項 ⑤ その他生産組織に関する事項 ⑥ 病虫害対策に関する事項	① 受託組織の指導 ② 農家経営等の調査 ③ 共済加入促進指導	① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証指導	① 展示ほの設置、指導 ② 品種構成の指導 ③ 技術講習・実演会 ④ 土壌調査 ⑤ 栽培指針の策定 ⑥ 病虫害対策の指導
	沖縄県農業共済組合 (八重山支所)	① 共済加入率の促進に関する事項 ② 病虫害被害耕地への対応の PR	① 加入促進説明会		
③ 毎年度の検証方法・体制	竹富町さとうきび産地システム化推進会議、共済推進協議会、農業経営改善計画認定審査会等にて実績報告及び評価を行う。				

(参考情報)

1. 県（島）の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

【島の概況】

- ・ 八重山群島の中央に位置する。島の周囲は 14.8 k m、面積は 12.77k m²、人口は 540 人である。
- ・ さとうきびを中心とする農業が島の主な産業である。

《竹富町全体のデータ》

産業別就業構造は第 1 次産業 9%、第 2 次産業 25%、第 3 次産業 66%であり、農業産出額は 227 千万円（H18）で肉用牛（149 千万円）、さとうきび（46 千万円）、パイン・マンゴー（14 千万円）が主な農産物となっている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位：ha)

	耕地面積	作付面積	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	41,560	462.5	391.3	—	—	—	—	49.2	—
H18	41,560	442.5	367.9	—	—	—	—	49.2	—
H19	41,560	449.0	365.4	—	—	—	—	49.2	—
H20	41,560	462.0	363.4	—	—	—	—	49.2	—
H21	41,560	465.9	359.2	—	—	—	—	47.5	—
H22	41,560	477.7	370.0	—	—	—	—	46.4	—
H23	41,560	446.8	364.6	—	—	—	—	44.3	—
H24	41,560	462.6	384.4	—	—	—	—	42.7	—
H25	41,560	447.4	388.4	—	—	—	—	37.3	—
H26	41,560	443.8	384.7	—	—	—	—	28.4	—

※H19 年以後、品目によっては市町村統計が公表されていないため数値が把握されていない。

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t / ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	191	1	6	198	59.260	33.000	21.670	57.980	11,318	33	130	11,481	15.20
H18	176	1	4	181	64.484	42.500	31.081	63.702	11,362	34	115	11,511	16.20
H19	179	3	4	185	67.290	42.436	33.164	66.175	12,011	132	126	12,269	15.10
H20	171	0	7	178	63.877	32.032	25.441	62.377	10,949	9	171	11,129	17.00
H21	163	2	5	170	83.275	52.630	48.719	81.896	13,606	111	240	13,958	17.40
H22	184	0	8	193	83.739	49.749	43.317	81.899	15,402	17	367	15,787	15.40
H23	162	1	17	180	50.701	41.918	43.501	49.982	8,208	48	719	8,975	16.00
H24	173	2	28	202	56.425	41.641	29.718	52.643	9,756	80	821	10,656	15.40
H25	163	1	40	204	58.010	31.790	23.890	51.220	9,434	38	944	10,416	15.90
H26	167	2	41	210	37.423	17.856	25.286	34.864	6,235	33	1,043	7,311	14.90

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人、工場調べ)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H17	3	7	26	40	37	113
H18	3	8	24	38	39	112
H19	3	9	14	29	55	110
H20	4	8	17	38	44	111
H21	4	7	13	28	50	102
H22	5	10	13	27	50	105
H23	4	11	5	32	51	103
H24	3	14	10	23	51	101
H25	2	12	4	39	48	105
H26	2	11	7	34	50	104

【経営（収穫）規模別農家戸数】

（単位：戸、工場調べ）

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	23	70	17	3	113
H18	28	76	7	1	112
H19	27	73	9	1	110
H20	29	72	9	1	111
H21	29	62	10	1	102
H22	29	68	7	1	105
H23	25	66	11	1	103
H24	23	60	15	3	101
H25	27	63	13	2	105
H26	22	64	15	3	104

【製糖工場の操業状況】

	操業率（%）	操業期間（日）	歩留（%）	トラッシュ率（%）
H17	88.32	102	14.05	2.26
H18	88.55	101	15.02	2.07
H19	94.38	111	14.04	1.53
H20	85.61	108	16.43	1.47
H21	107.37	130	15.77	1.36
H22	121.44	135	14.06	1.43
H23	69.04	87	15.76	1.29
H24	81.97	96	15.14	1.85
H25	80.13	102	15.13	2.21
H26	56.24	70	13.43	1.97